JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

ICCI2018と第40回研究大会の同時開催

創造性とイノベーション―学際的研究と実践―

徐方啓実行委員長

去る9月10日から12日にかけて、日本創造学会は第40回研究大会を開催すると同時に、近畿大学経営イノベーション研究所と共同で「国際創造とイノベーション会議」（ICCI2018）を大阪国際交流センターにて開催しました。日本ではこの分野の国際会議が初めてなので、内外の学界に注目されていました。アメリカ創造学会、ヨーロッパ創造とイノベーション協会、ドイツ創造学会、フランス創造性開発協会、ポルトガル創造とイノベーション協会、アメリカ創造教育財団、南アフリカ創造財団、国際アントプレナーシップフォーラム、ニューヨーク州立大学国際創造性研究センター、エセックス大学ビジネススクール、および経営関連学会協議会、日本ベンチャー学会、大阪観光局が大会の公式パートナーまたはスポンサーとなりました。

同国際会議を開催するために、日本創造学会は5年前から毎年20万円の積立金を計上しました。また、一年半前から会議専用のウェブサイトの開設など実際の準備を始めました。ところが、会議の数日前、台風21号による関西国際空港の閉鎖で15名の外国参加者が来日できなくなる非常事態が発生しました。それにもかかわらず、主催者と参加者の協力で困難を乗り越え、無事開催することができました。この３日間で、日本を含め世界20ヵ国・地域からの参加者は合計109名（うち、外国の参加者は25名）に上りました。

両会議の合同プログラムには4人の基調講演、70件の口頭発表と1回のワークショップが含まれており、さらにパナソニック博物館の見学というオプションもあり、充実した内容でした。細井美彦近畿大学学長は挨拶のスピーチを、ロバート・スタンバーグコーネル大学教授はビデオメッセージをくださいました。

会議後、外国の参加者から感謝のメッセージがたくさん送られてきました。主催者にとってその上にない嬉しさと慰めを感じました。詳しくはICCI2018専用のホームページをご覧ください。http://www.ICCIosaka2018.net

Keynote Speakers

Prof. Yoshihiko Hosoi
President of
Kindai University
Sep 10, 2018

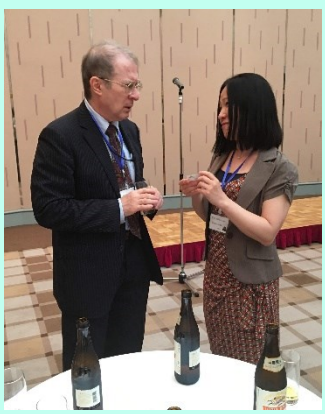
Prof. Emenitus
Ikujiro Nonaka
Hitotsubashi University
Sep 10, 2018

Prof. Masaaki Kotabe
Temple University,
USA
Sep 10, 2018

Prof. Gerard Puccio
The State University of
New Your, USA
Sep 12, 2018

世界各国からの参加者との懇親会

●ゲストとともに鏡割りのセレモニー



●司会のデビッドメッセイ先生と有賀三夏先生

★★学会賞授賞式★★

2018年9月10日第40回研究大会開催時に行われた会員総会会場にて、学会賞を受賞された方の表彰式が行われ、田村理事長より表彰状と記念品が送られました。

【日本創造学会論文賞】

論文タイトル：ゲーミフィケーション要素を用いた継続的分散ブレインストーミング支援ツール

2017年度論文誌Vol.21論文賞
古川洋章氏･由井薗隆也氏

論文タイトル：アクティブ･ラーニングによる Webカメラを用いたサービス接遇教育の効果

2017年度論文誌Vol.21論文賞
藤原由美氏・前野隆司氏・水島章弘氏

【研究大会発表賞】

発表タイトル：かき氷店経営によるアクティブラーニングと参加学生のクリエイティビティ

第39回研究大会発表賞
姜理惠氏

発表タイトル：対話を通じて暗黙知を表出化させる「ジェネレイティブ・インタビュー」の提案

第39回研究大会発表賞
中村一浩氏

表彰式欠席

発表タイトル：スポーツ・イノベーション
―スポGOMI大会―

第39回研究大会発表賞
相原正道氏

ICCI2018

Best Paper Award and Best Student Paper Award

Best Paper Award

Dr. Dave Valliere and Mr. Zohreh Hassannezhad: *Mindfulness, Creativity, and Novelty Production of Entrepreneurs*
Dr. Chunfang Zhou: In Between Ha-Ha and Aha!: *Designers' Humor as a Way of Creativity in Group Innovation Experience*

Best Student Paper Award

Mr. Masanori Fukui, et al. Hiroshima University
Mr. DU Bo , et al. Japan Advanced Institute of Science and Technology

Chairman Xu and Mr. Fukui

Chairman Xu and Mr. Du

研究大会発表風景2018

ICCI2018 Presentation

Presentations (Sep 10, 2018)

Presentations (Sep 11, 2018)

▲▼▲ 11月10日第57回クリエイティブサロン開催報告 於：SSBC会議室▲▼▲

講演会：『イノベーション教育とイノベーションワークショップ』

講演者：金恩英氏 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科准教授・日本創造学会会員

第56回クリエイティブサロン講演では、米国、日本、ドイツ、韓国など先進国の名門大学で研究し、教育した経験をもとに、現在の大学の問題とトレンドを理解し、今後必要とされる大学教育の姿は何かについて議論しました。

まず、現在の大学教育の課題としてミレニアル世代と呼ばれる新しい世代の学習方法の理解、大学財政構造の変化に伴う需要者のニーズに合わせた新しい教育プログラム、創造性の必然によって新たに生じるいくつかの新生研究分野の教育の方向性確立などについて議論しました。続いて、先進国では、今後のソサエティ5.0時代に備えるため、どのような形の新しい大学または大学院教育課程を設立し、どのように運営していくのかという事例－コーディング教育をするフランスのエコール42、古典を読む韓国の健明院、毎学期世界の都市を移動、生活しオンラインアクティブラーニングをするミネルバスクール、起業家精神を強調する米国シリコンバレーのシンギュラリーティー大学－を紹介しました。

そして、創造性研究の世界的な学者であるルンコとクリステンセン教授の理論に基づいて、創造性とイノベーションはどのように違うのか、イノベーションはどのように分類することができ、教育者の立場から学生にどのようなイノベーション創出を奨励すべきについて説明しました。続いて講演者本人の実証的な教育経験と、これをもとに、革新的なアイデアの創出のための主な要因は何であり、それに応じてイノベーションワークショップのプロセスをどのように設計することができるかについて説明しました。

講演は、英語でしたが質問は日本語と英語の両方を使用し、イノベーション教育における国際比較、教育者としての課題等について議論が行われました。 （記事 ：金恩英）

ワークショップ：『できたことノート実践講座』

講師：永谷研一氏 発明家、株式会社ネットマン代表取締役社長

「できたことノート」実践講座 雑感

・できたことの見つけ方（Happy、Number、Personメガネ）
→感情に着目する、数に着目する、相手に着目するなどで今日の自分をポジティブに捉えること
・自分と向き合う、内省のための4つの要素
→反省と内省は違う、内省して素直な本音の思考やクリティカル・シンキングで深く思考すること
・行動力をアップする、クリティカル・シンキング手法
→できたことを見つめた後で、究極の質問をすること…「果たしてほんとにできたと言えるのか」
・ありたい姿を見つけるためには
→純粋な心を開放するため「心のフタ」を開けること…視野を広げ視座を高くする

などなど、先生の全力投球のワークショップが老朽化した思考と体にみずみずしさを与えてくれた至極の時間でした。懇親会では、先生と会員の共通の友人、先生、先輩などが繋がり大盛り上がりでした。

ワークショップ終了後、先生が即フェイスブックに感想を書いてくれましたのでアップさせていただきます。

『今日は日本創造学会主催のクリエイティブサロンに呼ばれ「できたことノート実践講座」をやってきました。若い企業家や大学の先生方々に混じり多くの年配の方々も参加されてワークを楽しんでいらっしゃいました。
事後アンケートでは前向きな意見を沢山もらいました。70歳近いシニアの方が少し目をウルウルしながら「今日は来てよかった！目が覚めた。とても元気になった。明日からも頑張る」って帰って行ったことを事務局の方に聞いて、ほんと、やってよかったなと思いました。
セミナー中に自己肯定感が下がる理由は「他者との比較」と話すのですが、懇親会でシニアの方から「自己肯定感が下がる理由は加齢だ。他者との比較とはまさに過去の自分との比較。風呂上がりに自分の体を見るとガッカリする」という意見があり皆さん、そうだそうだと同意されている姿に深く納得しました。
今まで子供や生徒、若手社会人や女性にフォーカスしてきましたがシニア層にも「できたことノート」の必要性を感じた次第です。また学会にお呼ばれするようなのでシニア向けでエビデンスとってみようかなとも思います。人生の先輩方！今日はありがとうございました。また会いましょう』 （記事：豊田貞光／引用FB記事：永谷研一）

KICSS2018成功裏に開催される

The 13th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems

理事 國藤　進

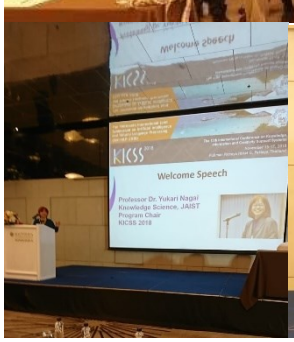
本学会も協賛している第13回国際会議KICSS2018は第13回タイ人工知能学会自然言語処理国際会議AI－NLP2018とのジョイント・シンポジウムとして、タイのパタヤのプルマンホテルで、2018年11月15－17日に成功裏に開催された。

シンポジウムの参加者はスタッフを除き135名（写真１）で、うちKICSS2018の参加者は57名である。KICSS2018への投稿55件、受理46件、Long papers 12件、Regular papers 20件、　Short papers 12件、Poster papers　2件である。このうちLongとRegularがIEEEのProceedingsに掲載される予定である。国別ではアジアを中心に9か国の参加があった。

日本からの参加者で会員は永井由佳里理事、小出実、三浦元喜、有賀三夏、下郡哲夫、姜理恵、Ting Liu、Bo Du,, Zhisheng Wangと小生の10名である。全体のウェルカム・スピーチは永井理事、レセプション・スピーチは小生であった。

JAIST東条敏教授が「音楽とAI」という魅力的招待講演をされた。質疑は多いに盛り上がった。創造性支援システムでは東京大学関口海良氏のアイデア結晶化研究がベストプレゼンテーション賞をもらうなど、注目を集めた。この分野は今後、深層学習やビッグデータとの統合研究が必要である。さてホテルは海辺に面し風光明媚で、レセプションやバンケットの食事もゴージャスで美味しかった。バンケットでの授賞式は華やかで、受賞者はおおいに喜んでいた。初日はKAANショーという大スペクトラムの観劇、最後の日は水上マーケットへの招待と、タイ式のおもてなしは最高で、まさに「微笑みの国」でスマイルできた。

なお次回KICCS2019はベトナムのハーチミン市のホーセン大学で、2019年11月21－23日に開催される。創造学会の方は正会員・学生会員を問わず、投稿し参画されたい。



○●●会員の書籍紹介○●●

WISEPLACE INNOVATION 目的工学によるイノベーション実践手法
紺野 登（著），一般社団法人FCAJ・目的工学研究所（著）（第9章田村新吾（著））
出版社：翔泳社　価格：2700円（税込）

日本においてもようやく「デザイン思考」の普及や、企業によるオープンイノベーションのための場の開設が盛んになってきました。イノベーションを冠したシンポジウム、ワークショップなども活発化しています。しかし、現段階においてはそこから期待通りにイノベーションが生まれるようになってきている状況とは言えません。むしろワークショップやイベントをセッション的におこなったり、そのための施設を作っても成果に結びつかないという声も聞かれるようになりました。本書は、こうしたイノベーションを起こす「場の方法論」について包括的に著す日本初の試みとして企画された、イノベーションのためのレシピ本です。

新入会員紹介

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
下郡　啓夫	正会員	函館工業高等専門学校	北海道	教育工学
安松　健	学生会員	京都大学経営管理大学院	大阪府	社会学・マーケティング・組織人材開発
金森　紀博	正会員	㈱ワングリット	千葉県	教育工学・情報科学・金融工学
犬塚　岳史	学生会員	九州大学工学研究院	東京都	金融工学・ブロックチェーン・教育工学
大橋　智文	正会員	アズビル㈱	神奈川県	VE・プロセスデザイン・知財情報分析

▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼　総会報告　▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼

2018年9月10日、会員総会が開催され、2017年決算・事業報告、2018事業活動状況、2019年活動予定、2019年予算案等の項目について理事会より提案・報告され会員の皆様の賛成多数で承認・可決しました。

2017年収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	2,332,686	2,747,573	
会費収入	1,532,000	2,132,000	前年度未回収分 入会金・年会費 退会者納付分合算
その他収入	172,000	288,600	論文掲載料 論文誌販売収入等
合計	**4,036,686**	**5,168,173**	

2017年度支出

科目	予算額	実績額	備考
大会費	500,000	3,305	496,695
会議費	90,000	59,680	30,320
研究会補助費	420,000	191,836	228,164
交通費	130,000	86,268	43,732
発送費	80,000	36,612	43,388
学会誌	250,000	80,622	169,378
ニューズレター・メディア	250,000	249,959	41
事務局費	350,000	349,635	365
名簿規約管理費	200,000	199,326	674
HP管理費	110,000	108,432	1,568
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	30,000	17,280	12,720
電話使用料	30,000	18,728	11,272
国際会議準備費	200,000	0	200,000
関西支部活動費	0	640	−640
予備費	1,276,686	123,724	1,152,962
支出合計	**4,036,686**	**1,646,047**	

	収入額	支出額	繰越額
収支	**5,165,173**	**1,646,047**	**3,519,126**

２０１９年度予算

収 入		支 出	
2018年度繰越分（監査未終了概算）	¥2,221,726	大会費	¥500,000
		会議費	¥90,000
会費収入　（会員数からの概算）		研究会補助費	¥400,000
内訳		交通費	¥130,000
正会員197人×10000円×75%	¥1,477,500	発送費	¥80,000
学生会員30人×5000円×70%	¥105,000	学会誌	¥50,000
海外会員6人×5000円×50% 2018年の実績に基づいた支払い率で計算	¥15,000	NL・メディア作成費	¥250,000
		事務局費	¥350,000
新入会者入会金約15名分 （2000×10、1000×5）	¥25,000	名簿・デジタルデータ類管理費 （規約、名簿、会費収納簿、ITｱﾄﾞﾚｽ等管理）	¥200,000
		ホームページ管理費	¥110,000
論文掲載料	¥180,000	事務所設備費 （光熱費、OA機器保守費、事務所使用費　等）	¥120,000
雑収入	¥20,000	学会賞準備費	¥30,000
		電話使用料	¥30,000
		予備費	¥1,704,226
	¥4,044,226		¥4,044,226

※予算収入欄の2018年度からの繰越額は年度途中のため概算です。（2018年見込繰越額参照）

2019年度会費収入については2018年現時点での会員数に基づいた概算です

2019年度論文掲載料・雑収入については2018年度実績に基づいた概算です。

事務局メッセージ

9月10日～12日の3日間、大阪で開催された第40回研究大会は本学会初の国際会議ICCI2018との同時開催でした。開催直前に台風による関西空港が閉鎖など大変な状況の中、無事開催できたたことを大変嬉しく思います。プログラムの一部変更などありましたが、会員の皆様、そして経由便などで苦心して大阪にご参集くださった海外からの研究者の皆様に心より感謝申し上げます。　（事務局:比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2018年12月発行（4№）
日本創造学会事務局
発行人 ：田村新吾
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp